

令和4年度 特別の教育課程の編成の方針について

| | | |
|------------------|----------|-------|
| 茨城県 | | |
| 学 校 名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 鹿嶋市立豊郷小学校（外 11校） | 鹿嶋市教育委員会 | 公立 |

1. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

*取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

3. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

4. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

鹿島アントラーズ選手によるTPRでは、動作を実際に行いながら英語表現を覚えることができた。繰り返し練習することができたので、表現を覚えることができた。

- ・ゲームで活動しながら、英語で楽しくコミュニケーションを取ることができた。
- ・英語に対する苦手意識が強い児童への指導改善が必要である。

・「Small Talk」を行うことで、英語を聞き取る力が高まり、それに伴い語彙力も向上した。

・ゲームを通じて、楽しみながらその時間に学習したことを身に付けることができた。

・ルーブリック（評価規準）を児童に伝えてからパフォーマンステストを行ったので、意欲的に活動できた。C評価の児童が「どうすれば」B評価になるのか、B評価の児童が「何ができるようになる」とA評価になるのか、支援するために用いた。

・言語活動を行う「目的・場面・状況」を明確にした。ただ単に「食べ物を紹介しよう」とするのではなく、「茨城の特産品を用いたカレーを作り、外国の方に紹介しよう」と設定することによって、児童の相手に伝えようとする意識を高めた。

・6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度同様、全体のジュニアグレードが4だった。さらなるステップアップをするために、会話の中で相手の話に応じて意見や理由を話せる力や、単語だけでなく短い文で書くが必要になってくる。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

・「Small talk」の活動で、ALTと協力して話題を工夫し、日常的に既習表現を用いる時間の提供、確保をする。個人差が激しいので、より一層楽しく学べるための工夫が必要であるととも、間違えて問題ないことを繰り返し伝えたい。

・会話をする際に、一文だけで終わらないようにするため、話を継続するためのテクニックを繰り返し指導する。

・非言語（ジェスチャー、アイコンタクト、クリアボイス）については、3年生から継続的に指導し、高学年では評価せずとも、コミュニケーションにおける1つのマナーとして児童が身に付けていられるよう意識させる。